

paper craft

KUNST ARZT では、昨年に引き続き、大西晃生個展を開催します。大西晃生は、ネットも含め膨大な量の情報に溢れる世界において、現実や意識とは何かを考察するアーティストです。インターネット上で収集したポートレートを紙に印刷、変形させたものを描く絵画では、ネット社会によって抵抗できないまま歪んでいく我々の姿を映し出し、「Three mirrors (2020)」では、作家が女性として生まれた際に名付けられる予定だった「大西叶恵」について、スカートなどの女物衣類や親との対話などを通して考察しました。ご注意ください。 (KUNST ARZT 岡本光博)



paper craft (human) #8 2021

経歴

1996年 岡山県生まれ
2019年 京都精華大学 デザイン学部イラスト学科 卒業

展覧会

個展

2020年 「live coverage」 KUNST ARZT (京都)
2021年 「still life」 ギャラリークトー (東京)

グループ展ほか

2018年 「CAF 賞 2018」 代官山ヒルサイドテラス (東京)
2019年 「東下」 rusu (東京)
2019年 「孤独と連帯」 プライベート (東京)
2019年 「ALLNIGHT HAPS 2019 後期「Kangaru」」 HAPS オフィス 1F (京都)
2020年 「シエル美術賞展 2020」 国立新美術館 (東京)

2021年6月1日 (火) から6日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

paper craft

アーティスト・ステートメント

大量の情報が氾濫する世界において、現実や意識とは何かについて制作している。
今の世の中は大量に物や情報が溢れる物質的な世界だ。
表面的には魅力的だが、中は空洞のハリボテのような。
そんなもので溢れてるように感じる。
その中で生きている我々も、物質のひとつであり表面的な存在なのかもしれない。
虚構のイメージを通して現代人のアイデンティティについて考える。



paper craft(human) #6

2021 410×318×60mm キャンバス にアクリル
インターネット上で収集したポートレート
を印刷し変形させたものを描いた作品。



Three mirrors

2020 インスタレーション
女性として生まれていたら
付けられていたはずの名前
「叶恵」という人格を起点とした作品。
「叶恵」としてあったかもしれない
人生や、母と子、または人間と
人形の支配/被支配の関係性などに
ついて言及した作品。



fragile face

2020 冊子
仮面に投影される誰かの顔と
その裏にできる影がさらに
仮面のようになるインスタレーション
作品のアーカイブ。